



## 創造することの楽しさを味わおう！

9月20日（金）の5、6校時に、作家の田丸雅智さんをお招きして、4年生を対象に「ショートショート（短い物語）の書き方講座」を開きました。田丸さんについては、ご存じの方も多いと思いますが、松山市出身の作家で、坊ちゃん文学賞の審査員等も務められています。元気な4年生を相手に、楽しく、優しく「ショートショート」の書き方を教えてくださいました。子どもたちの発想を肯定的に受け止めながら、それを広げていく指導の仕方は、私たち教師にも参考になりました。最初は、書くことが苦手と言っていた子どもたちも、講座の最後には、自分なりの物語を作っていくところまで到達していました。

田丸さんは、作家でも思いつかないような子どもたちの発想に驚いていました。東京大学工学部大学院を卒業されていて、文学とは畑が違うところから作家になられています。お話を聞くと、「物を作るという点では、工学も文学も同じ」とのことでした。理論で構築される工学よりも文学の方がそれにとらわれない広い意味での「創造」があるとおっしゃっていました。

子どもたちは、そもそも、絵を描く、空き箱で工作をする、粘土で形を作るなど、ものを作ることが大好きです。子どもたちの「創造力」を少しでも伸ばすことができるようにするのも教育の大事なことだと感じました。

田丸さんの本は、図書室にもあるので子どもたちにはぜひ読んでほしいと思います。すべての本のサインにも気さくに応じていただきました。ありがとうございました。私は、個人的に大ファンなので、直接お話しできたことがうれしかったです。比較的初期の作品「夢巻」や「おとぎカンパニー」がおすすめです。

※ 田丸さんの公式サイトにも、潮見小学校のHPの内容が紹介されています。



## よい遊びを楽しくするために

9月27日（金）3、4校時に1年2組で生活科の研究授業を行いました。「なつがやってきた」という長い単元の中の、水遊びをテーマにした学習です。「水鉄砲・魚すくい・スライダー・舟」の4つの遊びに分かれて子どもたちは活動しました。これまでの活動の中で、廃材を使って水で遊べるおもちゃを作りました。作ったおもちゃで遊びながら、どうすればより楽しく遊べるか、ということを考えてみました。子どもたちは、まずは、「丈夫でなければい

けない」という思いがありましたので、改良をしながら水の遊びにも耐えられるものにしていました。さらに、みんなと遊ぶうちに、水鉄砲なら的を変えたい、スライダーならコースを長くしたい、というような新たな発想も生まれてきました。子どもたち同士で関わることで、遊びをよりよくしようとしていました。これは、普段の生活にもつながることで、正に「生活科」の目標でもあります。子どもたちの活動を通して、生活科の指導の在り方を学ぶことができました。

